



● 環境色彩研究発表会聴講者募集

環境色彩研究会で、2022年度研究発表会が、以下の通り開催され、日本色彩学会員のほか、一般の方も聴講できます。

大至急お申し込みください。

◆日時：2023年2月25日（土）

13:00～16:00

◆形式：ZOOMによりオンライン開催

◆参加費 無料

■プログラム

1. 日原もとこ先生追悼企画

◆水野谷梯子：日原もとこ先生との研究を振り返る「紅花のルーツを辿る」—映像アーカイブス・プロジェクト調査研究の紹介—

◆環境色彩研究会：日原先生の年表を作る

2. 一般研究発表

◆安岡義彦：経年変化する建材の魅力についての考察

◆高山美幸：風土に根ざしたまちづくりに関する研究 その2 設計者が考える「景観計画」に関するアンケート調査

◆萩原京子：建築評論と色彩

■聴講申込フォーム

<https://forms.gle/ydKyysrhf9VZG9gs6>

萩原主査当てメールでも申込みます。

(学会メールニュース No.389 から引用・永田泰弘)

● 私の好きな色 「ライラック」

ライラックの花の色からとられた薄紫の色名。英語の色名として定着したのは1775年前後とされている。この時代にはまだ紫や赤紫の化学染料は発見されていないから、単にライラックの花のような色という一般的な色名だったのかもしれない。化学染料出現の後の1905年には、フランス語のリラ (lilas) という名前に変わって流行色の色名になる。

フランス語のリラは、アラビア語の lilak、ペルシャ語の lilag を借用したものだそうだが、もとの意味は青っぽいということだが、ラヴェンダーよりも赤みの薄紫色である。

【ライラックの花言葉】友情、青春の思い出(紫)、初恋、恋の芽生え。

開花時期：4～6月。フランスでは「リラの咲くころ」というと一番よい気候のころを指す。花弁は4枚だが、5枚のものを見つくと幸せになるという言い伝えがある。北海道札幌市の花。和名は「紫丁香花(ムラサキハシドイ)」。

●ライラック (Lilac)

[やわからい紫] 6P 7/6

参考文献：福田邦夫著『決定版 色の名前 507』

二宮孝嗣著『美しい花言葉・花図鑑 彩りと物語を楽しむ』 (森加なつ美)

● 大辞泉ひろいよみ 6—あ・い

暗順応：暗いところで目が慣れて、しだいに物が見えようになること。

暗色：それぞれの色で、明るさの度合いが低く、暗い感じがするもの。(反対は明色)

暗赤色：黒みがかかった赤色。どす黒い赤色。

暗調：絵画や写真のできばえが暗いこと。

暗点：視野中の島状の欠損部分。

暗碧：黒身を帯びた青色。

暗緑色：黒みを帯びた緑色。ダークグリーン。

★

言い白ける：発言がその場にそぐわなくて気まずくなること。

烏賊の黒作り：イカの墨を入れて作ったイカの塩辛。

異彩：普通とは違ったいろどり。きわだってすぐれたようす。

位色 (いしき)：当色(位階に相当する服色)。

異色：同じでない色。他と異なって特色のあること。

伊勢白粉：いせおしろい。伊勢国射和付近で作られていた白粉。水銀を原料とし、上等品とされた。

一斤染：平安時代の染物の一。紅花一斤で絹一匹を染めること。また、その染めた絹。いっこんぞめ、いっきんぞめ。(永田泰弘)